

平成20年度の大学運営上の重点取り組み分野

(年度計画のダイジェスト版)

【国立大学法人 滋賀医科大学】

大学の基本的な目標

滋賀県は、現在、人口の増加率が非常に高い県であり、「近い将来には、高齢化率が一番低い県(一番若い県)になる」と予想されている。このように増え続ける県民に対して、福祉や安心・安全な医療を提供すること及び住民のニーズにあった医学情報提供の場を設けることは重要な課題である。

また、滋賀県は中央に琵琶湖があるために、結果として環状になっている細長い県といえる。このため地域間のコミュニケーションが比較的とりにくく、医療機関や医療情報のネットワーク構築が求められている。

滋賀医科大学としては、このような地域の特徴を考慮しつつ、独自の新しい医学・看護学の教育・研究を推進するとともに、その成果を滋賀の地から国内はもとより世界に発信し、医学・看護学の発展に貢献すること及び高度な医療を提供することによって、人々の福祉の向上に寄与することを目標とする。

これらの目標を達成するために、構成員の「競争(個性化)」と「協調(和)」を軸にして、組織運営にあたる。また、教育・研究・医療の一層の充実と基盤強化の観点から近隣の大学との再編・統合を検討する。



平成20年度重点分野【教育1 / 2】

● 学士教育

- 全人的医療体験学習を新たに開講
 - 患者訪問実習等の教育プロジェクトの成果を踏まえ、「全人的医療体験学習(患者様訪問実習)」を開講し、コミュニケーションや倫理的配慮ができる能力の養成を図る。
- 地域「里親」による医学生支援プログラムの実施
 - 将来の地域医療を担う医師・看護師の育成を目指し、入学初年より、卒業生等を「里親」、地域の方々を「プチ里親」として配置し、学生への助言体制をつくる。
- 国家試験合格率に目標値を設定
 - 医師国家試験においては95%以上、看護師国家試験においては98%以上及び保健師国家試験は95%以上の合格率を目指す。

● 大学院教育

- 高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成
 - 地域におけるがん治癒率の向上とがん患者の生活の質の改善を実現するため、チーム医療を基盤とした最先端のがん医療実践の中で、がん医療専門職の人材育成を目指す。東近畿地区の本学と京都大学、三重大学、大阪医科大学が連携して実施。
- 大学院(博士課程)改革を実施
 - 社会的ニーズや入学希望者のニーズにあった医学系研究科の博士課程のあり方について検討する。



平成20年度重点分野【教育2 / 2】

滋賀医科大学では

地域の医療の担い手を、地域との連携で育てる 『地域「里親」による学生支援プログラム』



に取り組みます

滋賀医科大学 里親学生支援室 <http://www.shiga-med.ac.jp/~satooya/>

文部科学省の「平成19年度新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に、地域の医療を担う医師・看護師の育成をめざす地域参加型学生支援事業『地域「里親」による医学生支援プログラム』が採択されました。深刻化する地方の医師、看護師不足を解決するために、地域で活躍している同窓生だけでなく、地域に暮らすみなさんにも協力をお願いして、さまざまな支援を行ないながらその成長を見守っていかうというものです。

プログラム立案の背景

ー不安や悩みを抱える医学生たち

- 大都市部に医師・看護師が集中し、地方では深刻な医師・看護師不足による社会問題が起っています。
- これまでの医学教育では、地元地域を意識した教育・学生支援はほとんど行なわれてきませんでした。
- 地域医療に関心のある学生がいても、その「初心」を育み支える支援策がありませんでした。
- 地域に残ることに不安を抱く学生をサポートする対策が求められています。

期待される効果

ー交流の中から地域医療への意欲を育みます

- 「里親」「プチ里親」との交流を通じて地域への愛着を増し、地域医療への関心を持続向上させ、滋賀県で活躍する卒業生をうみだすことが期待できます。
- 学生の人間関係における経験を豊かにし、優れた医療人となるための態度形成が期待できます。
- 「里親」「プチ里親」と連携交流することによって、学内だけでは発見できない学生支援の課題に気づいたり、教職員の能力向上が期待できます。
- 補助期間終了後も学部教育の一環と位置づけ継続的に取り組むことで、地域の医療を担う医療人の供給体制の確立が期待できます。

里親学生支援室では

ー地域と大学が協力して学生を支援します

- 関心のある診療科や所属クラブなど、学生の特性とマッチングさせて里親を選びます。
- まずメールのやりとりから始めて、春夏冬休みには里親を訪ねて直接交流を図ります。
- 「医学概論Ⅰの早期体験学習」「自主研修」「社会医学フィールド実習」「学外（地域）臨床実習」などで、里親・プチ里親の下で長期体験実習が行なえるようにします。
- 「学生理解」や「学生指導法」などについて、里親・プチ里親も参加できるFD研修を行います。また、インターネットを利用してFD研修を受講できるようにします。

ご協力をお願いします！

里親とは 滋賀県内で働く同窓会の医師と看護師の中から趣旨に賛同いただける方

プチ里親とは 病院ボランティア、模擬患者ボランティア、献体篤志家組織「しゃくなげ会」の会員と家族、および広く滋賀県民の中から趣旨に賛同いただける方



平成20年度重点分野【研究1 / 2】

● 5つの重点研究プロジェクトを推進

1. サルを用いた医学研究	<ul style="list-style-type: none">●サルを用いた感染防御研究（鳥インフルエンザのワクチン開発） 【文部科学省 人獣共通感染症基礎研究連携事業】●クローン胚作成技術の確立とES細胞を用いたアルツハイマー病モデルサル作成
2. 核磁気共鳴(MR)医学研究	<ul style="list-style-type: none">●MR・光標識分子素材の開発 【科学技術振興機構 さきがけ研究、育成研究】●MRガイド下手術を支えるデバイス開発 【文部科学省 都市エリア発展型】
3. 生活習慣病医学	<ul style="list-style-type: none">●疾病予防のための大規模コホート研究 【厚生労働科学研究費補助金 健康科学総合研究】●動脈硬化症に関する疫学研究 【科学研究費補助金 基盤研究A、GSK受託研究費】
4. 地域医療支援研究	<ul style="list-style-type: none">●滋賀県と近隣大学による各種障害者についての理解促進と障害者支援に関する研究事業の推進
5. 神経難病研究	<ul style="list-style-type: none">●アルツハイマー病のMR画像診断薬の開発 【科学技術振興機構 育成研究】●アルツハイマー病の治療薬開発のための基盤研究 【(独)医業基盤研究所 基盤研究事業】



平成20年度重点分野【研究2 / 2】

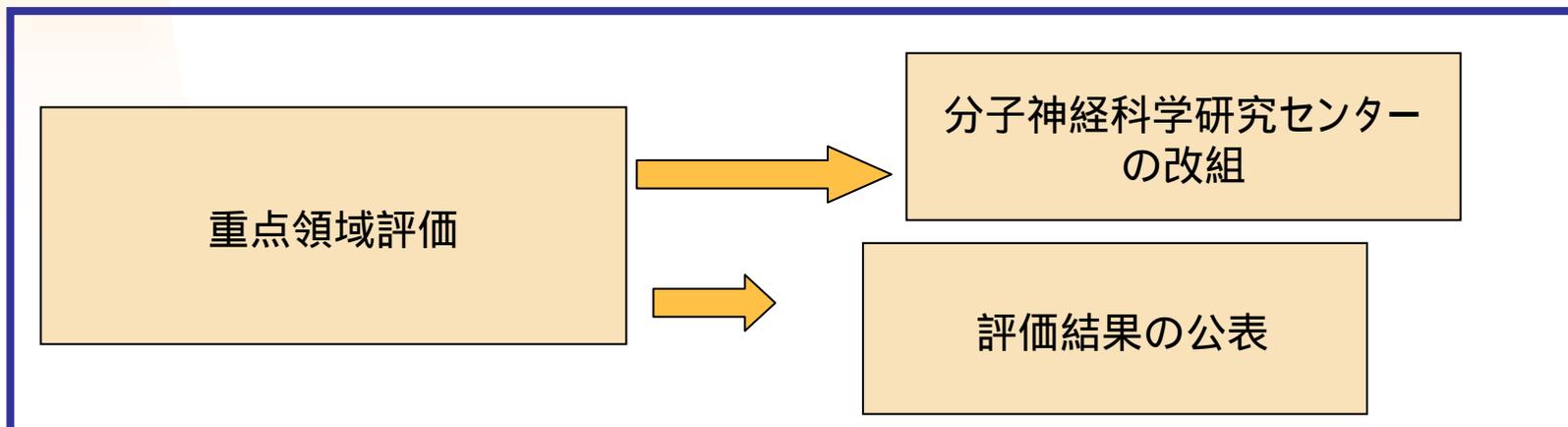
● 重点研究領域の評価

- 5つの重点領域について中間評価を実施しその結果を公表する。
- 評価結果を参考にして、次期中期計画における重点研究プロジェクトについて検討する。

● 分子神経科学研究センターの改組

- 改組を検討する全学的な委員会を立ち上げ、平成21年度の改組に向けての改組案を作成する。

重点領域研究の改革





平成20年度重点分野【診療1 / 2】

● 質の高い医療人の育成

□ 研修プログラムの充実

- 実践的で活動的な研修プログラムの充実を図り、全国的に問題となっている研修医の地域離れを防ぐ。

□ 病院スタッフの専門資格取得を推進

- 専門的な資格取得及び貢献度に応じた評価制度の導入を試行する。

● 質の高い医療の提供

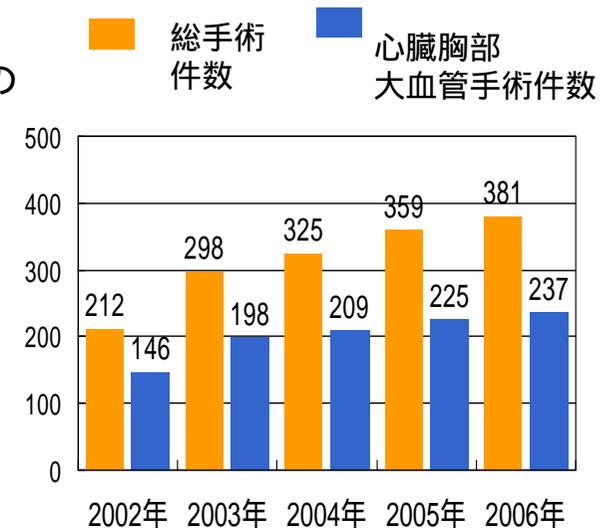
□ 高度専門的心臓血管診療の推進

- 心不全の集約的治療
- 心臓血管カテーテル法を用いた冠動脈疾患治療、不整脈の最先端医療の推進
- 高度専門心臓血管手術(心拍動下冠動脈手術)の推進
- “No refusal policy”の徹底

□ 生活習慣病に関する質の高い医療の提供

- 生活習慣病診療センターにおける生活習慣介入外来の推進(栄養、運動、ストレス、禁煙管理)
- 全身動脈硬化症のスクリーニングシステムの導入による早期診断と発症予防

心臓血管外科手術件数





平成20年度重点分野【診療2 / 2】

● 地域医療への貢献

- 寄附講座「地域医療システム学講座」での活動
 - 地域において周産期医療に従事する医師の育成や医療体制にかかわる諸問題を研究し、地域の住民に満足のいく周産期医療を提供。
- 地域中核病院としてがん診療の拠点化に向けた診療体制を充実する。

● 病院再開発【目指す医療への実現へ向けて】

- 病棟改修(A棟、B棟)を完成し、診療科の枠を超えた医療の推進、臓器別・疾患別病棟への移行など、より一層の機能集約化を進めるとともに、患者のアメニティの向上を目指す。
- リハビリテーション科の新設及び回復期リハビリテーション病棟を開設し、リハビリテーションの診療体制を充実するとともに、地域医療の向上等にも貢献する。





平成20年度重点分野【業務運営1 / 1】

● 経営に関する取り組み

- コスト構造改革を実施し効率化を目指すことで、余剰資金を創出する。その資金を活用し、一部は収入増の取り組みとしてパイロット的に実施していく。
- 節減対策ワーキンググループ(学生も含む全学組織)が昨年度から実施している「もったいない見回り隊」による節水及び節電等の意識を浸透させる具体的な施策(学内巡視等)を展開する。

● 管理運営に関する取り組み

- 法人化後の各事業等の取組状況等の総括(中間評価)を行い、改善すべき点等を洗い出す。
- 次期中期目標期間にむけて大学として進むべきビジョン等の策定作業に着手する。

